



CABANA

BODY SHAFT

TOYOTA GAZOO Racing 86/BRZ Race 2018 PROFESSIONAL Series
Rd.2 スポーツランドSUGO ADVICS CABANA 86 REPORT

デビュー2戦目ながら、ポールトゥウィンと ファステストラップを記録する完全勝利を達成!!

Qualifying / 1st / 1'39"098

多くの国内トップドライバーが出場しているTOYOTA GAZOO Racing 86/BRZ Raceに若手ドライバーの堤優威選手を起用し、メインスポンサーとなる大手自動車部品メーカーの株式会社アドヴィックス様や多くのサポートを受けて3年ぶりにシリーズフル参戦することになったT by Two CABANA Racing。3月31日、4月1日に鈴鹿サーキットで実施された開幕戦では、予選で13位を獲得したものの、決勝レースではトップ10を狙うグループの激しい戦いに巻き込まれて接触を喫してしまい、25位でデビュー戦を終えました。

立て直しを図り第2戦のスポーツランドSUGOラウンドに挑むことになったT by Two CABANA Racingと堤選手は、4月20日に同サーキットで事前テストを実施。このテストで、クルマのセットアップを進めるとともに、まだまだ走行距離が少ないためにマシンに慣れることも含めて、さまざまなメニューをこなしました。

第2戦のレースウィークは、4月26日(木)に設けられていたスポーツ走行枠より走行を開始。翌日の27日(金)には、TOYOTA GAZOO Racingの専有走行枠があり、参加した30台の中で最多周回数となる15周を走行し、ベストタイムは1分39秒598で、7番手となりました。



予選は、28日(土)の13時15分からスタート。今週末のスポーツランドSUGOは、練習走行から好天に恵まれ、予選日となった土曜日も朝から強い日差しが照り付けていました。予選が行なわれた午後には気温が20℃を越え、宮城県に位置するスポーツランドSUGOとしては暖かい一日となりました。

#7 ADVICS CABANA 86の指定作業エリアがピットロード出口に近かったためチームは、予選開始早々に堤選手をコースインさせます。インラップでは十分にタイヤやブレーキに熱を加えつつ、前走車との間合いを適度に保ってタイムアタックを開始。落ち着いて1コーナーを通過した堤選手は、セクター1、2ともに走行していたマシンの中でトップタイムをマーク。最終的に1周目のタイムアタックで1分39秒098を記録します。プロフェッショナルシリーズでは、装着するタイヤが最高の性能を発揮するのは1周しかないことや、予選と決勝を同一のタイヤで走行しなければならないため、予選は1周のみの計測とするのが定石となっています。そのため堤選手は、全体トップのタイムを保持したまま1周のタイムアタックでピットに戻り、後はライバル勢の計測を見守りました。15分間の予選も後半になると、シリーズチャンピオン経験者の#82谷口信輝選手や#34佐々木雅弘選手などがタイムアタックを行ないませんが、堤選手のタイムを更新することができず、参戦2戦目ながらも見事にポールポジションを獲得しました。





歓喜のポールポジション獲得から一夜明けた29日(日)に13周に渡る決勝レースが実施されました。10時45分にエントリーした30台が一斉にコースイン。#7 ADVICS CABANA 86を駆る堤選手は、1周を周回してポールポジションにマシンを並べます。そして15分のスタート進行を終えて、フォーメーションラップがスタート。やや緊張の様子が見受けられた堤選手ですが、30台を引っ張りスターティンググリッドに着きます。

11時7分にレッドシグナルが消えて決勝レースがスタート。堤選手は、無難な加速で第1コーナーをトップで通過します。2番手に付けたのは、予選で2位となった#369平中克幸選手、3番手には#1近藤翼選手、4番手には#82谷口信輝選手、5番手には#88井口卓人選手で予選順位と同様のポジションとなります。第4コーナーのシケインも抜かれやすいポイントとなるので、堤選手はしっかりと後続を押さえこむと、レースを優位に進めるためにブッシュします。1周目のコントロールラインを通過した時点で、2番手に0.6秒の差を付けると2周目には、ファステストラップとなる1分40秒475をマークして、後続とのギャップを1.1秒まで拡大させることに成功。2番手争いが激化したこともあり、後続との差は周回を重ねるごとに増していき、4周目には2.4秒、レースが折り返してとなる7周目には3.7秒まで拡がります。



レースも後半に入ると、堤選手は後続とのギャップを確認しながらペースをコントロールします。6周目に2番手争いを制した近藤選手がペースアップしてギャップを縮めてくることを警戒しましたが、それでも3秒以上の間隔を保ったままレース最終盤に入ります。ファイナルラップに入った時点で、トップを走る堤選手と2番手の近藤選手とのギャップは3.7秒で、その差を維持したまま13周目にトップチェッカーを受けました。

プロフェッショナルシリーズに参戦して2戦目ながらも見事にポルトゥウインを達成し、決勝レース中のファステストラップも記録。第2戦のスポーツランドSUGOラウンドを完全に制覇しました。この結果によって堤選手は22ポイントを獲得し、ポイントランキングで一気に2位に浮上。5月26日、27日に熊本県のオートポリスで開催される第3戦でも活躍が期待されます。



開幕戦は、プロフェッショナルシリーズの洗礼を受ける形になってしまいましたが、チームは第2戦の前にテストを行なって、堤選手も山崎チーフエンジニアも手応えを掴んでいました。予選では、素早くコースインできる場所がチームの作業エリアという幸運もありましたが、それでも堤選手が想定以上のタイムをマークしてポールポジションを獲得してくれました。決勝レースは、1周目さえ押さえれば有利にレースが運べると思っていたのですが、その通りの展開をドライバーが行ってくれました。4月はスポーツランドSUGOで開催された、今回のTOYOTA GAZOO Racing 86/BRZ Race第2戦とGLOBAL MX-5 CUP JAPAN開幕戦ともに勝利することができ、忘れられない一ヶ月となりました。これも我々の活動をサポートしてもらっているスポンサー様の支援があってこそです。次戦以降もその応援に確実に応えたいと思います。



Driver's Comment

堤 優威選手／Yuui Tsutsumi

レースウィークは26日(木)から走り始めて、事前のテストで仕上げたセットアップからほぼ変更なく走行しました。ニュータイヤを入れてタイムも良かったので、トップ10に入れる自信はありました。27日の専有走行でも7番手で、予選シミュレーションや決勝レースを見据えたロングランも行ない、準備は整っていました。予選は、開始早々にコースインしてクリアラップが取れたことや、蒲生尚弥選手の後ろで引っ張ってもらえたこともあり好タイムをマークできました。ポールポジションが獲得できるとは思っていませんでしたので良かったです。決勝レースは、1周目の第4コーナーまで後続を押さえれば優勝が近づくと思っていました。前半はプッシュしてファステストラップもマークでき、ポールのタイムとできすぎのレースウィークです。次戦以降も、しっかりと結果を残せるように挑んでいきます。



Chief Engineer's Comment

山崎チーフエンジニア／Noboru Yamazaki

レースウィークの前週からテストを実施させてもらって走行距離を稼ぎ、経験の少ない堤選手には86レースカーの特性を掴んでもらいました。26日(木)と27日(金)の練習走行では、レースシミュレーションも確実にできましたが、ライバル勢に対してタイムは劣っていました。そのためポールポジションは難しいと考えていましたが、予選では堤選手がミスなくタイムアタックを行ってくれて、ライバル勢のタイムが伸びなかったこともあってトップとなりました。決勝レースは、2番手争いが激化したため、狙い通りの展開となりました。予選と決勝ともに運に恵まれたところはありませんでしたが、それでもポールのタイムとファステストラップも記録できたので存在感は示せました。この優勝が運でないことを証明するために、次戦以降もしっかりと上位争いをしたいです。



CABANA

BODY SHAFT